

保険・年金 フォーカス

インドの生命保険会社の状況 —2018年度の決算数値を踏まえての 成長性・効率性・収益性・健全性等の動向—

常務取締役 保険研究部 研究理事

ヘルスケアリサーチセンター長 中村 亮一

TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

インドの生命保険会社の状況については、これまでもいくつかのレポート¹で報告してきた。

生命保険会社各社は、Public Disclosure として、四半期毎に決算数値の公表を行っている。また、インドの保険監督当局である IRDAI(Insurance Regulatory and Development Authority of India)は、毎年12月から翌年の1月にかけて、Annual Report を作成して、前年度の決算に基づく業界全体の数値等を報告している。

このレポートでは、LIC と民間の外資系生命保険会社の5社について、2018年度決算ベースの各社の Public Disclosures 資料の数値に基づいて、その成長性・効率性・収益性・健全性等の状況について報告する。なお、現段階においては、IRDAI の2018年度の Annual Report は未公表のため、業界全体の最新数値は2017年度となっている。

2—収入保険料の状況

2018年度の収入保険料の払方別の内訳は、次ページの図表の通りである。

対前年増加率については、国営の LIC が一桁進展であるのに対して、民間5社は2桁進展で、5社全体でも21.3%と高い進展となっている。これにより、LIC のシェアについては、ここ数年低下傾向にあり、2017年度はついに7割を切ることとなったが、2018年度はさらに低下しているものと想定される。

保険料の払方別内訳では、一時払の占める割合が、LIC、HDFC Standard、Bajaj Allianz では3割を超えて高くなっているが、他の3社は1割程度となっている。

¹ 基礎研レター「[インドの生命保険市場\(1\)~\(6\)](#)」(2015.11.30~2016.1.18)、基礎研レポート「[インドの生命保険会社の状況—2016年度の決算数値を踏まえての成長性・効率性・収益性・健全性等の動向—](#)」(2019.3.11) 等

収入保険料の内訳(2018年度、初年度(一時払・一時払以外)・次年度別)

保険会社	収入保険料(払方別)					対前年 増加率
	①一時払 以外	②一時払	③初年度 (①+②)	④次年度 以降	合計 (③+④)	
LIC	31,326.21	111,009.74	142,335.95	195,169.11	337,505.07	6.1%
ICICI Prudential	6,978.53	3,385.82	10,364.35	20,565.41	30,929.97	14.3%
HDFC Standard	5,058.10	9,913.34	14,971.44	14,214.57	29,186.02	30.1%
SBI Life	9,057.22	4,734.75	13,791.97	19,197.43	32,989.42	30.1%
Max Life	3,873.12	1,287.28	5,160.40	9,414.82	14,575.22	16.6%
Bajaj Allianz	1,736.95	3,185.87	4,922.82	3,934.33	8,857.16	16.9%
合計	58,030.13	133,516.80	191,546.93	262,495.67	454,042.86	9.6%
上記民間5社合計	26,703.92	22,507.06	49,210.98	67,326.56	116,537.79	21.3%

3 経営効率の状況

1 | 継続率

保険契約の13月目と25月目の継続率(年換算保険料ベース)の過去5年間の推移は、以下の図表の通りである。継続率は、商品・販売チャネル等によっても、大きく異なるが、これらの合計数値として、各社の数値が示されている。なお、各社の算出ベースは必ずしも統一されていないので、会社間で水準を比較する場合には注意が必要となる。

各社とも13月目継続率は77%以上となっており、Bajaj Allianzを除けば25月目継続率も71%以上となっている。なお、Bajaj Allianzの25月目継続率は、他社に比べてかなり低い水準であったが、ここ2年間は水準を大きく改善させてきている。

各社とも、継続率の改善は大きな課題であり、監督当局であるIRDAIも注視している。基本的には、各社とも着実に水準の向上を図ってきている状況がみてとれる。

継続率(13月目)年換算保険料ベース

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
LIC	77%	72%	74%	76%	77%
ICICI Prudential	79.0%	82.4%	85.7%	86.8%	86.2%
HDFC Standard	73.26%	78.88%	83.81%	87.10%	87.24%
SBI Life	76.29%	77.67%	77.71%	81.27%	83.90%
Max Life	77%	79%	80%	81%	83%
Bajaj Allianz	67.6%	62.9%	68.2%	77.2%	79.0%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

継続率(25月目)年換算保険料ベース

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
LIC	68%	72%	66%	68%	71%
ICICI Prudential	65.9%	71.2%	73.9%	78.3%	77.4%
HDFC Standard	64.01%	67.39%	75.29%	77.44%	80.47%
SBI Life	68.22%	69.51%	68.96%	70.82%	74.25%
Max Life	64%	67%	70.4%	72.0%	71%
Bajaj Allianz	48.8%	48.8%	51.1%	58.2%	67.6%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

2 | 事業費効率

事業費効率の推移は、次ページの図表の通りである。

基本的には、民間保険会社については、規模の拡大に伴い、事業費率が低下していくことが期待されているが、2018年度については、民間の5社中、2社が上昇、2社が低下、1社が横ばいとなっている。

手数料(コミッション)率については、2018年はBajaj Allianz以外は前年に比べて低下している。

総事業費率(対保険料)

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
全体	17.16%	14.07%	16.32%	16.17%	-
LIC	15.65%	14.33%	15.17%	15.21%	14.38%
LIC以外	21.27%	20.75%	19.22%	18.33%	-
ICICI Prudential	14.4%	13.1%	13.9%	12.7%	13.4%
HDFC Standard	14.24%	15.78%	16.34%	17.97%	16.90%
SBI Life	14.83%	14.81%	12.64%	11.20%	10.52%
Max Life	25%	22%	23%	20%	20%
Bajaj Allianz	22.1%	21.5%	19.5%	18.7%	21.0%

(※)IRDAIの資料及び各社のPublic Disclosures資料により、筆者が作成。

手数料(コミッション)率(対保険料)

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
全体	5.93%	5.52%	5.29%	5.53%	-
LIC	6.31%	5.82%	5.53%	5.74%	5.73%
LIC以外	4.91%	4.74%	4.65%	5.04%	-
ICICI Prudential	3.6%	3.2%	3.4%	5.2%	5.0%
HDFC Standard	4.20%	4.30%	4.07%	4.56%	3.83%
SBI Life	4.69%	4.51%	3.73%	4.42%	4.08%
Max Life	9%	9%	9%	7%	7%
Bajaj Allianz	3.5%	2.7%	2.4%	2.7%	3.4%

(※)IRDAIの資料及び各社のPublic Disclosures資料による。

事業費率(対保険料)

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
全体	11.23%	10.57%	11.03%	10.64%	-
LIC	9.34%	8.52%	9.64%	9.47%	-
LIC以外	16.36%	16.01%	14.57%	13.29%	-

(※)IRDAIの資料及び各社のPublic Disclosures資料による。

3 | 運用利回り

各社の運用利回りの推移を示したのが以下の図表である。これは、基本的に、契約者ファンドのうちのノン・リンク型・有配当に対するものであり、LIC の数値のみが、契約者ファンド全体の平均に対する数値となっている。

これによれば、金利水準を反映して、運用利回りも低下傾向にあるといえるが、各社とも引き続き高い運用利回りを確保している。

運用利回り

会社名	2014	2015	2016	2017	2018
LIC	8.22%	8.11%	7.78%	7.71%	7.59%
ICICI Prudential	9.3%	8.7%	9.7%	11.0%	8.3%
HDFC Standard	13.22%	6.05%	9.28%	8.94%	7.42%
SBI Life	9.84%	8.40%	8.65%	8.86%	8.96%
Max Life	10%	9%	9%	9%	8%
Bajaj Allianz	8.8%	8.5%	8.9%	8.5%	8.6%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

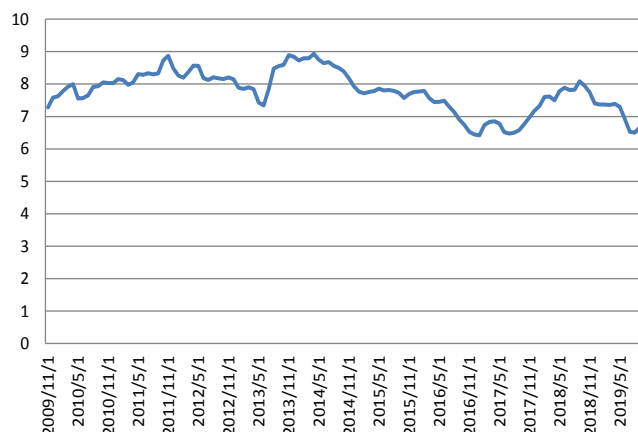
(参考) インドにおける金利の推移

右図が、インドの10年国債の利回りの推移を示している。

先進諸国とは異なり、現状では低金利に悩まされているという状況ではないが、最近では金利が低下してきている。

このような金利水準を背景に、各社は着実な運用収益を挙げるとともに、その成果を配当として、契約者に還元してきている。

インドの10年国債利回りの推移(%)



4—収益性の状況

1 | 会社全体の収益状況

LIC と民間の 5 社の収益状況を比較した場合、商品や販売チャネルの違い等から、保険料との比較での収益性は大きく異なる状況となっている。なお、利益水準は、責任準備金評価のための計算基礎の設定によっても影響を受ける形になっている。

2018 年は、LIC、HDFC Standard、SBI Life 及び Max Life の利益(税引後)は増加したが、ICICI Prudential 及び Bajaj Allianz の利益は減少している。なお、対保険料利益率で見た場合、民間 5 社の水準は全体的には低下傾向にある。

LICと民間5社の利益(税引後)の状況 (単位:十億ルピー)

会社名	2016		2017		2018	
	保険料	利益(税引後)	保険料	利益(税引後)	保険料	利益(税引後)
LIC	3,004.87	22.31	3,182.23	24.46	3,375.05	26.88
ICICI Prudential	223.54	16.81	270.68	16.19	309.29	11.38
HDFC Standard	194.45	8.92	235.64	11.09	291.86	12.76
SBI Life	210.15	9.54	253.54	11.50	329.89	13.26
Max Life	107.80	6.59	125.00	5.27	145.75	5.56
Bajaj Allianz	61.83	8.36	75.78	7.16	88.57	5.01
上記民間5社合計	797.77	50.22	960.64	51.21	1,165.36	47.97

(※)各社のPublic Disclosures資料から作成。

2 | 商品種類別の収益状況

ICICI Prudential は、商品種類別の収益状況も開示しており、それが以下の図表の通りである。

これによると、以前は、年金保険(リンク型)が高い収益を上げる形になっていたが、最近では、生命保険(有配当)及び生命保険(リンク型)の収益が、実額及びウェイトともかなり大きくなっている。

ICICI Prudentialの剰余(Total Surplus)の商品種類別内訳 (単位:十億ルピー)

会社名	2016		2017		2018	
	保険料	剰余	保険料	剰余	保険料	剰余
生命保険(有配当)	25.62	4.88	31.80	7.36	34.68	6.99
年金保険(有配当)	0.32	0.67	0.27	0.56	0.22	0.54
生命保険等(無配当)	27.98	2.32	30.97	2.05	39.12	2.31
生命保険(リンク型)	151.03	2.02	190.01	4.84	213.10	5.65
年金保険(リンク型)	6.60	2.91	5.51	2.70	4.14	2.05
医療保険(リンク型)	1.19	0.37	1.03	0.34	0.89	-
団体保険(リンク型)	7.53	0.19	4.06	0.08	2.66	0.10
会社全体	223.54	14.58	270.68	18.29	309.29	17.70

(※)ICICI PrudentialのPublic Disclosures資料による。

5—健全性等の状況

1 | 責任準備金の計算基礎

インドの生命保険会社の責任準備金の計算基礎については、全社統一の計算基礎率が定められているわけではない。毎年度末決算において、それぞれの会社の状況を踏まえて決定されるため、各社毎に異なっている。ロック・フリー方式²で定められるため、契約毎に毎年の計算基礎率が変化することにもなる。以下

² 責任準備金評価において用いる計算基礎について、契約時に使用したものを固定(ロック・イン)するのではなく、評価時毎にその時々適正と考えられる計算基礎等で評価する方式

では、代表的な計算基礎である、予定利率と予定死亡率の状況について、報告する。

(1) 予定利率

個人生命保険(有配当)契約の場合の水準について、各社の状況を見てみると、民間の5社に比較して、LICが相対的に高い予定利率を採用している。

2015年度から2016年度にかけては、民間の4社が予定利率(最高及び最低)の引き下げを行ったが、2017年度においては、LICは最高利率を引き下げ、Bajaj Allianzが予定利率を引き上げていた。2018年度は、ICICI Prudentialが予定利率を引き下げたが、Max Lifeは予定利率を引き上げた(以下の各図表において、前年度から変更が行われた部分に網掛けをしている、以下の図表で同様)。

責任準備金計算基礎(予定利率)

—個人生命保険(有配当)契約の場合—

会社名	2016		2017		2018	
	最高利率	最低利率	最高利率	最低利率	最高利率	最低利率
LIC	8.00%	6.90%	7.60%	6.90%	7.60%	6.90%
ICICI Prudential	4.96%	4.96%	5.51%	4.66%	5.37%	4.44%
HDFC Standard	5.80%	5.80%	7.00%	5.80%	7.00%	5.80%
SBI Life	5.95%	5.95%	5.95%	5.95%	5.95%	5.95%
Max Life	5.40%	5.40%	5.40%	5.40%	5.45%	5.45%
Bajaj Allianz	7.25%	7.25%	7.50%	7.50%	7.50%	7.50%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

LICの予定利率については、商品毎に異なっており、無配当商品では有配当商品よりも低い予定利率を採用しているケースもある。これは、一般的に、有配当と無配当のファンドの期待利回りや配当によるバッファ要素を反映したものと説明されている。LICは2015年度に幅広い商品の予定利率を引き下げ、2016年度は前年と同水準に留めていたが、2017年度は再びいくつかの商品の予定利率を引き下げている。2018年度は個人年金(有配当)の最高利率を引き下げた。

責任準備金計算基礎(予定利率)

—LICの場合(個人保険商品毎)—

会社名	2016		2017		2018	
	最高利率	最低利率	最高利率	最低利率	最高利率	最低利率
個人生命(有配当)	8.00%	6.90%	7.60%	6.90%	7.60%	6.90%
個人生命(無配当)	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%
個人年金(有配当)	8.60%	6.90%	8.50%	6.90%	7.50%	6.90%
個人年金(無配当)	7.00%	7.00%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%
個人ユニット・リンク	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%
医療リンク型	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%	6.90%
医療ノン・リンク型	6.50%	6.50%	6.10%	6.10%	6.10%	6.10%

(※)LICのPublic Disclosures資料による。

事業年度毎の予定利率の変化については、LICの場合、個人年金保険(有配当)では、次ページの図表のようになっている。個人生命保険(有配当)では、2013年度から2016年度までの4年間は同水準で推移していたが、最高利率について、2017年度は0.1%の引き下げを行い、2018年度は再度1.0%の引き下げを行っている。

責任準備金計算基礎(予定利率)

—LICの個人年金保険(有配当)の場合(事業年度毎)—

会社名	最高利率	最低利率
2011年度末	9.10%	7.10%
2012年度末	8.80%	7.10%
2013年度末	8.60%	6.90%
2014年度末	8.60%	6.90%
2015年度末	8.60%	6.90%
2016年度末	8.60%	6.90%
2017年度末	8.50%	6.90%
2018年度末	7.50%	6.90%

(※)LICのPublic Disclosures資料による。

(2) 予定死亡率

予定死亡率については、基本的には、最新の標準生命表である「IALM(2006-08)Ult.」をベースにしている。ただし、この生命表をそのまま使用しているわけではなく、商品毎、性別、年齢別、対象市場毎に異なる調整を行った死亡率を採用している。さらに、その水準や方式についても、各社毎に異なっている。

2018年度末において、個人生命保険(有配当)契約の責任準備金評価における予定死亡率について、SBI Lifeを除く民間の4社は見直しを行っている。

責任準備金計算基礎(予定死亡率)2018年度末

—個人生命保険(有配当)契約の場合—

会社名	予定死亡率
LIC	IALM(2006-08)Ult. の135%
ICICI Prudential	IALM(2006-08)Ult. の90%~130%(ただし、男性は+1歳、女性は▲1歳)(定期保険) ※ IALM(2006-08)Ult. の200%(地方向け商品)
HDFC Standard	IALM(2006-08)Ult. の48%~240%
SBI Life	IALM(2006-08)Ult. の90%~130%
Max Life	IALM(2006-08)Ult. の32%~517%
Bajaj Allianz	IALM(2006-08)Ult. の80%~600%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

(参考)責任準備金計算基礎(予定死亡率)2017年度末

—個人生命保険(有配当)契約の場合—

会社名	予定死亡率
LIC	IALM(2006-08)Ult. の135%
ICICI Prudential	IALM(2006-08)Ult. の90%~125%(ただし、男性は+1歳、女性は▲1歳)(定期保険) ※ IALM(2006-08)Ult. の200%(地方向け商品)
HDFC Standard	IALM(2006-08)Ult. の42%~264%
SBI Life	IALM(2006-08)Ult. の90%~130%
Max Life	IALM(2006-08)Ult. の66%~570%(初年度)、50%~241%(次年度以降)
Bajaj Allianz	IALM(2006-08)Ult. の80%~800%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

また、LICにおける商品毎の予定死亡率は、次ページの図表の通りである。生存保障要素の高い商品等については、低めの割増率や年齢のセットバックによる割引を行い、死亡保障性の高い商品では、相対的に高い割増率を採用している。

LICは、個人年金保険契約の年金受給後の予定死亡率について、2015年度末にセットバック年齢を3歳から4歳に引き上げ、2016年度末にはさらに5歳に引き上げ、2017年度末には6歳に引き上げるという変更を行っていたが、2018年度は変更していない。

責任準備金計算基礎(予定死亡率)

—LICの場合(個人保険商品毎)—

会社名	2017	2018
個人生命(有配当)	IALM(2006-08)Ult. の135%	IALM(2006-08)Ult. の135%
個人生命(無配当)	IALM(2006-08)Ult. の135%	IALM(2006-08)Ult. の135%
個人年金(有配当)	年金受給前 IALM(2006-08)Ult. の110%	年金受給前 IALM(2006-08)Ult. の110%
個人年金(無配当)	年金受給後 LIC a(1996-98)Ult.(ただし、▲6歳)	年金受給後 LIC a(1996-98)Ult.(ただし、▲6歳)
個人ユニット・リンク	IALM(2006-08)Ult. の135%	IALM(2006-08)Ult. の135%
医療リンク型	IALM(2006-08)Ult. の110%	IALM(2006-08)Ult. の110%
医療ノン・リンク型	IALM(2006-08)Ult. の110%	IALM(2006-08)Ult. の110%

(※)LICのPublic Disclosures資料による。LIC a(1996-98)Ult.は、現在のIALM(2006-08)Ult. の前の経験生命表

以上のように、予定死亡率については、各社の経験データ等に基づいて、対象とする市場における経験発生率の状況等も勘案する中で、各社が合理的・妥当と考える水準に設定されてきている。

2 | ソルベンシー比率(Solvency Ratio)

6社のソルベンシー比率の推移は、以下の図表の通りである。各社毎に絶対水準は大きく異なっているが、各社とも IRDAI が最低基準としている 1.5 (150%) の水準を上回っている。

大手各社のソルベンシー比率(Solvency Ratio)

会社名	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
LIC	1.54	1.54	1.54	1.55	1.55	1.58	1.58	1.60
ICICI Prudential	3.71	3.96	3.72	3.37	3.20	2.80	2.52	2.15
HDFC Standard	1.88	2.17	1.94	1.96	1.98	1.92	1.92	1.88
SBI Life	2.11	2.15	2.23	2.16	2.12	2.04	2.06	2.13
Max Life	5.34	2.07	4.85	4.25	3.43	3.09	2.75	2.42
Bajaj Allianz	5.15	6.34	7.34	7.61	7.93	5.82	5.92	8.04

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

なお、LIC のソルベンシー比率は安定的に推移しているが、民間の5社は規模の拡大に合わせて、基本的には絶対水準は低下傾向にある。ただし、引き続き高水準を維持している。

3 | 剰余の分配(契約者配当)の状況

保険契約者に対する配当としては、保険金増額式配当(Reversionary Bonus)と消滅時配当(Terminal Bonus)がある。このうち、例えば、2018年度決算に基づいて、2019年度に割り当てられる、2018年度の保険金増額式配当率については、次ページの図表の通りとなっている。

2016年度から2017年度にかけては、ICICI Prudential、HDFC Standard 及び Bajaj Allianz が配当率の一部引き下げを行ったが、他社は2016年度と同水準となっていた。2017年度から2018年度にかけては、HDFC Standard、SBI Life 及び Bajaj Allianz が配当率の一部を変更している。

なお、例えば、LIC の養老保険や終身保険の場合、ここ8年間の配当率は同水準であり、安定的な配当が行われてきている。

契約者配当率

—個人生命保険(有配当)契約の場合(保険金増額式配当率)—

会社名	2017	2018
LIC	終身保険の場合 7% 養老保険の場合(保険期間により) 11年未満 3.4% 11年以上15年以下 3.8% 16年以上20年以下 4.2% 20年超 4.8%	終身保険の場合 7% 養老保険の場合(保険期間により) 11年未満 3.4% 11年以上15年以下 3.8% 16年以上20年以下 4.2% 20年超 4.8%
ICICI Prudential	終身保険の場合(保険料払込期間により) 15年以下 3.00% 16年以上20年以下 3.40% 21年以上25年以下 4.20% 26年超 4.60%	終身保険の場合(保険料払込期間により) 15年以下 3.00% 16年以上20年以下 3.40% 21年以上25年以下 4.20% 26年超 4.60%
HDFC Standard	2%~6%	1.75%~6%
SBI Life	商品・保険期間等による 1.55%~3.25%(平準払の場合)	商品・保険期間等による 1.55%~3.5%(平準払の場合)
Max Life	加入年齢と保険期間等で定まるとして、具体例を記載	加入年齢と保険期間等で定まるとして、具体例を記載
Bajaj Allianz	1%~6%	1%~7.5%

(※)各社のPublic Disclosures資料による。

(参考)EV(Embedded Value)の公表

EVについては、大手の生命保険会社が公表している。算出方式は、ICICI Prudential と SBI Life が IEV(Indian Embedded Value)という方式で、HDFC Standard 等がMCEV(市場整合的EV)となっている。ここで、IEV(Indian Embedded Value)というのは、インド・アクチュアリー会が作成しているアクチュアリー実務基準に基づいており、基本的には資産と負債の市場整合的な評価を行う MCEV と調和している方式である。

EV や新契約マージンは、会社の成長性や収益性を示す1つの指標となっている。

これによれば、各社の2018年度の新契約マージンは15%~25%の範囲にあり、2017年度に比べても水準を上げている。このように、引き続き新契約における高い収益性を確保している。

また、EVについては、2015年度に増加率が低下していたが、2016年度から2018年度においては各社とも、Bajaj Allianzを除けば、2桁進展と大きく増加してきており、会社の価値を着実に高めてきている。

インド生命保険会社のEV

(単位:十億ルピー)

		ICICI Prudential	HDFC Standard	SBI Life	Max Life	Bajaj Allianz
計算手法		IEV	MCEV	IEV	MCEV	MCEV
2018年	EV	216.23	183.0	224.0	89.38	129.89
	新契約マージン	17.0%	24.6%	17.7%	21.7%	15.6%
2017年	EV	187.88	152.16	190.70	75.09	118.58
	新契約マージン	16.5%	23.2%	16.2%	20.2%	12.5%
2016年	EV	161.84	124.70	165.37	65.90	112.65
	新契約マージン	10.1%	22.0%	15.4%	18.8%	13.0%
2015年度末 EV		139.39	102.05	129.99	56.17	98.76
2014年度末 EV		137.21	88.10	-	52.32	93.02
2013年度末 EV		117.75	69.92	-	39.53	76.01

(※)各社のAnnual Report等による。SBI Lifeの2015年度末EVはMCEV

6—まとめ

ここまで、2018年度決算に関する各社の Public Disclosures資料等に基づいて、インドの生命保険業界の主要各社の成長性・効率性・収益性・健全性等の状況について報告してきた。

インドの生命保険市場は、大きな潜在力を有し、今後さらなる成長が期待できる市場であるが、市場の変化に対応して、これまで、各種の保険監督規制の改革等が行われてきている。こうした環境下で、生命保険会社は、商品開発とチャネルの改革、リスク管理体制の充実等の課題に取り組み、経営効率化を進めてきている。

成長性が高く、健全性を維持しつつ、一定の収益性が期待できる市場だからこそ、日本の保険会社も含めて、欧米の主要保険グループが、この市場に魅力を感じて注力してきている。

今後とも、その動向は極めて注目されることから、引き続き注視していくこととしたい。

以上